

## ■放射線モニタリングシステム「ラジプローブ」

○ 放射線災害発生時に現地の状況を遠隔地でリアルタイムに確認可能なシステムを開発する。

【課題】原子力災害などでは、現地派遣者の被ばく状況など安全確認が派遣者本人、指揮本部とも困難である。

- ⇒ 放射線測定情報、位置情報、環境映像を劣悪な通信環境下でもリアルタイムに指揮本部へ送信するシステムを開発
- ・派遣者が携帯もしくは車両に搭載することによって、指揮本部がリアルタイムに現地の画像付きで汚染状況などの情報を確認可能となり、派遣者の被ばく線量低減化などの安全確保を補助することが可能に。
  - ・指揮本部が情報を把握することで、現地活動の指揮や緊急時の退避指示が可能。
  - ・放射線テロ現場の検知活動にも適用。
  - ・移動中の放射線測定情報を記録することにより自動的にモニタリングマップを作製[2015年論文発表]。地域や公園等の汚染状況の把握にも有効。



放医研の特許を実施許諾。  
株式会社千代田テクノルより  
2012年度製品化

